



※写真はイメージです 実際の製品仕様と異なる場合があります

453系 常磐急行ときわ

◆実車ガイド

- ・453系は交直流両用の急行形電車で、最初に登場した451系のモーター出力アップ版として1963年から製造されました
- ・東日本用として交流50Hzに対応した453系は、クモハとモハのみの形式で、クハ・サハ・サロなどは引き続き451形として製造されました
- ・後に勾配区間に対応した抑速ブレーキ装備の455系が登場し、勾配区間が存在する東北本線系統の急行列車に使用されますが、比較的平坦な路線である常磐線にはそのまま453系が運用されました
- ・常磐線は1966年上野～取手間で列車防護無線が導入されたため、同線を走行する車両には基本、無線アンテナが取り付けられ、453系もクモハ・クハの屋根上に送信用と受信用の2本のアンテナが装備されました
- ・453系は上野～平・仙台間の「ときわ」を中心に、常磐線経由で上野～盛岡間の「もりおか」や上野～勝田間を東北本線と水戸線を経由して運転された「つくばね」などの急行列車で運用され、「ときわ」については一部ディーゼルカーのキハ58系による列車と共に、1985年まで運転されました

【文責:トミーテック】

◆ここがポイント

POINT:1

常磐線運用車特徴の常磐無線アンテナは、配管含め別パーツで位置違いを選択取付可能



POINT:2

モハ452形の片側側面にあるルーバーを車体新規で再現



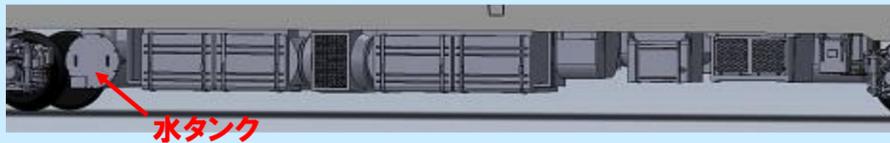
POINT:3

基本セットの先頭車のヘッドライトは原型の大型(左側)、増結セットはシールドビーム改造車(右側)で再現
スカートはクモハとクハを作り分けの上新規製作で再現



POINT:4

クモハ453・モハ452形は455系と異なる水タンク形状を新規で再現(画像はクモハです)



各画像は試作、開発中のものです 実際の製品とは異なる場合があります

◆製品化特徴

＜共通＞

- ・ハイグレード(HG)仕様
- ・クモハ・クハの常磐無線アンテナと配管は、配置位置が異なる2種から選択取付可能
- ・先頭車前頭部のジャンパ栓・ホースは別パーツ付属
- ・タイフォンは選択式で別パーツ付属
- ・モハ452形の片側側面にあるルーバーを車体新規で再現
- ・スカートはクモハとクハを作り分けの上新規製作で再現
- ・クモハ453・モハ452形は455系と異なる床下を新規製作で再現
- ・ヘッド・テールライト、前面表示部は常点灯基板装備、ON-OFFスイッチ付
- ・ヘッド・テールライト、前面表示部は電球色LEDによる点灯
- ・前面表示部はカラープリズム採用により白色に近い色で点灯
- ・前面表示部は交換式で印刷済みパーツ「急行・普通(白地)」を付属
- ・車番は選択式で転写シート付属
- ・新集電システム、黒色車輪採用
- ・先頭車運転台側は胴受けの小さいTNカプラー(SP)を採用
- ・各連結面側は配管付きTNカプラー(SP)標準装備

＜別売りオプション＞
室内灯: <0733>LC白色

●並べて楽しめる商品●



キハ58系 ときわ・奥久慈

＜98520＞について

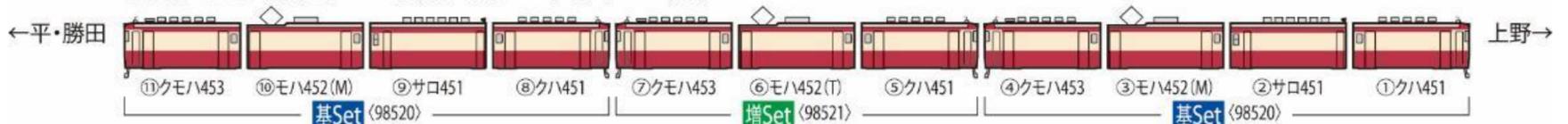
- ・グリーン車のサロ451形が入った4両基本セット
- ・サロ451形の屋根は両側ベンチレーターがずれた配置を新規製作で再現
- ・サロ451形の等級帯は無い姿で再現、帯は付属の転写シートで再現可能
- ・フライホイール付動力、M-13モーター採用

＜98521＞について

- ・モハ452形がトレーラー車の3両増結セット
- ・先頭車のクモハ・クハのヘッドライトは実車においてシールドビームに改造された車両を再現

■セット内容・編成例

●急行「ときわ」勝田(11～8号車)／平(7～1号車)(1984年頃)



※この編成では、<98520>基本セットを2セット使用します。

品番	98520	品名	国鉄 453系急行電車(ときわ)基本セット	セット両数	4両
発売月	2023年5月	JANコード	4543736985204	予価	¥20,240 (税込)
原産地	日本	パッケージサイズ	218×304×34mm	パッケージ形態	ブック型ブラケース
品番	98521	品名	国鉄 453系急行電車(ときわ)増結セット	セット両数	3両
発売月	2023年5月	JANコード	4543736985211	予価	¥12,100 (税込)
原産地	日本	パッケージサイズ	175×200×30mm	パッケージ形態	紙箱

JR東日本商品化許諾済